議会報告会報告書

<table>
<tr><td>開　催　日　時</td><td colspan="2">令和６年５月１７日（金）　午後７時００分　～　８時４５分</td></tr>
<tr><td>開　催　場　所</td><td colspan="2">松阪公民館</td></tr>
<tr><td>委　員　会　名</td><td colspan="2">文教経済委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出　席　議　員</td><td colspan="2">市野 幸男 委員長、橘 大介 副委員長、野呂 一平、吉川 篤博、
赤塚 かおり、西口 真理、山本 芳敬</td></tr>
<tr><td>司会進行者</td><td>（第１部）西口 真理　（第２部）野呂 一平</td></tr>
<tr><td>報　告　者</td><td>赤塚 かおり、野呂 一平</td></tr>
<tr><td>記　録　者</td><td>吉川 篤博</td></tr>
<tr><td>参　加　人　数</td><td colspan="2">第１部　　２３名　　第２部　　２３名</td></tr>
<tr><td>第２部　形　式</td><td colspan="2">ワークショップ形式（グループ３班）</td></tr>
<tr><td>主な質疑応答
意見・要望等</td><td colspan="2">別紙のとおり。</td></tr>
<tr><td>委員長の所感</td><td colspan="2">別紙のとおり。</td></tr>
</table>

松阪市議会議長　坂 口 秀 夫　　様

令和　６ 年 ５ 月　２９日

議会報告会実施要綱第８条の規定により提出します。

文教経済委員会

委員長　　市野　幸男

第１部用

【主な質疑応答・意見等】

問　「みえ松阪マラソン大会」についてまだまだ浸透していないと感じる。観覧席の設置や地元の招待ランナーの招聘もお願いしたい。また住民自治協議会への説明も協力のお願いだけで、何をしたらよいかわからない。市民みんなが歓迎できる大会にしていただきたい。

答　マラソンのコース以外の地域では、なかなか親近感がわいてこないかもしれないが、３回目、４回目となっていくと松阪市のものになってくると思う。ゴール地点の松阪総合運動公園では、おもてなしのできる状況にはなっておりランナーの方をお出迎えするムードにはある。ゴール地点の観覧は難しいので沿道で応援していただきたい。ランナーの方からは沿道の応援やイートインコーナーを高評価していただいているので、市民の方が一体となって応援していただけるとありがたい。

まだまだ課題の多い大会であるので、しっかりと取り組んでいくよう議会としても関わっていきたい。

問　「みえ松阪マラソン大会」に疑問がある。昨年行われた大会で、市内の複数の中学校で、中学生に対して授業としてのボランティア動員が行われた。強制ボランティアではないかと学校に伝えたが、ボランティア精神を学ぶためのボランティアの授業であると言われた。あくまでも中学生のボランティアというのは、地域の清掃活動や介護施設のお手伝い程度しか文部科学省の指針には上がってこない。

数千人規模が参加するマラソン大会に中学生を引率して作業させることはやり過ぎだと感じている。今まではクラブごとのボランティア動員であったが、そういうことをなくすために授業とすれば代休も取れるし、保険（保障）も使えるからだと思うが、中学生に作業させるのであれば、中学生の指針が必要ではないか。

また、みえ松阪マラソン実行委員会が主催で、松阪市、松阪市教育委員会が共催となる事業に対して学校が生徒を派遣するということは第三者のチェックが働かないので、せめて県に諮問していただき、適正であるとお墨付きをいただきたい。

当時、三重県ではインフルエンザ警報が出ていたし、１月に高校入試を控えていた３年生までも、これはボランティアの授業なのでと言われ動員されていたので、これは一学校長の判断だけでできるものではない。現場の先生方を責

めるつもりはないし、教師の過労死ラインを超えている労働時間の新聞報道があったが、「こんな大きな大会で、何で先生が担当させられているんやろう」、「なんで先生が走っとるんやろう」と思うと非常につらい。そういう意味で動いていただきたい。

答　議会ではそのような話は出なかったが、中学生のボランティアは各学校の判断によって授業として取り扱われるか、任意のボランティアとして各自で参加するか、クラブ単位で参加という学校もあった。各学校長の判断で参加といういろいろな結果であった。強制ではないと言いながら、中学生にとっては寒い時期でもあり、コースに近い学校と遠い学校では内容に違いがあって、出る時間や仕事内容に差があり、保護者の方からいろんな疑問点も出てきていると聞いているので、今後議会としても問題点はなかったか、より良い方向で行くように取り組んでいきたい。

　文教経済委員会としても、中学生のボランティアが強制で行われているということが言及されていないので、教育委員会や実行委員会からの周知が徹底されていなかったのかも含めて、次回に向けて今後とも注視していきたい。

意見　休んだら欠席というのは、私は強制であると思っているので、こういうことがないような大会にしていただきたい。すでに４月に配られた今年度の行事予定の中に、「マラソン大会での全校ボランティア」と書かれているので、これは学校ではなく松阪市として解決していただきたい。ネットに面白おかしく書かれたら、マラソン大会が飛んでしまうかもしれないと言う危機感があるので、是非よろしくお願いします。

問　マラソン大会での中学生ボランティアについては結構大きな問題であると思う。これから話し合われるコミュニティスクールの問題も同じで、学校長の判断だけで決められるのは遺憾に思う。見解を教育委員会と実行委員会に回答をもらわないと大きな問題になる。

　また、ボランティアで参加する時に、肢体不自由の方や特別支援学級のお子さんの配置について配慮をしていく必要があるのではないか。

答　各学校によって、授業の一環として行われて、参加しなかったら欠席だったところもあり、先生方も当然授業の一環であるので職務として責任を持って参加したところと、そうでないところもあった。詳細まで把握し切れていないので、しっかりと教育委員会に対して見解も聞いていきたい。現状を把握させていただいて、対応させていただきたい。

第２部用
【テーマ　コミュニティスクールについて】

【開催形式】
（ワークショップ形式）

【意見等】（Ａグループ）
・まず、コミュニティスクール（以下 CS）って何だろう。CS に対して学校の理解がない。これは何が問題かというと、先生方が CS に対する理解が足りない。CS はどんなメンバーでやっているのか、何をしているのかわからず、広報的なプッシュもしていただけてないし、教育委員会の方から一律で CS に対する対応をしていただきたい。
・その中で学校が特色を出していったらいいのであって、地域の方とともに取り組む、ボランティアも子どもや学校のため一生懸命に取り組んでいるので、先生方も地域とともに取り組んでほしい。
・あいさつをすることを取り組んでいる中、あいさつのできない先生もいる。教育委員会と学校のへだたり、CS の中で同じレベルで話せるような場を作ってほしい。住民協議会や老人会が行事をする中で、学校と一緒に行事を作っていけばもっと良いものになると思うし、それをもっと校長会でも取り組んでいただきたい。
・学校の中で、先生方が大変なのがわかるが、足りない部分を CS（ボランティア）で募集する。音楽の時間で非常勤の先生がピアノを弾けない時に、ピアノを弾けるボランティアを募るなど、足りないところをもっと活用していったら良いが、学校の先生が消極的であるためなかなか話し合いができず、もっと先生方を教育してほしい。子どもたちからも不満の声が出ているので、CS でカバーできると思う。コロナが明けたので、学校行事も地域ボランティアがいれは広げられると思うし、公民館や CS もあるし、もっと大きな秋祭りとかできていたのでもっとやっていってほしいとすごく思う。そうしないと低学年の子は入ったばかりで無理かもしれないが、高学年の子はスマホを持っていて、スマホでゲームをしていて朝起きられない子もいる。学校に来なくても夕方には一緒に遊んでいる。遠足の時は来る子もいて、学校でスマホを見なくても楽しい体験を増やしていっていただきたい。

【意見等】（Ｂグループ）
・CS というのは学校・子ども・地域のことであるが、学校に行けていない不登校の子どもたちやその親御さんはこういったところに参加できていない。そこをどのようにフォローしていくのかが課題である。

・CS の中身が保護者や地域に浸透していないところがある。松阪市で 100%CS を取り入れているが、それぞれの学校の CS の活動に温度差がありすぎる。教育委員会等々がそれぞれの学校がどうなっているのか検証していただけるとありがたい。
・CS とは何なのかなかなか認知されていない。学校の先生、保護者、地域の方々が何らかの形で認知していただけるようなことをやっていかないと難しいのではないか。たとえば、CS 同士で意見交流することで、我が校の CS の現在位置、現状どういうレベルか、議員も含めて確認する必要がある。
・開かれた学校と言うことで、牛久市の CS の取り組みを視察に行ったが、オープンな授業を子どもは望んでいるか聞いてみて初めてメリットを共有する必要がある。それぞれの学校長の方針や熱意によって、CS が進んだり停滞したりするので、しっかりやっていただきたい。
・基本的には誰も取り残さない、進めていかなければならない CS をどうやって進めていくか。B 班としては参加できない子どものことを考えて CS を進めていくことが大切であると考えた。

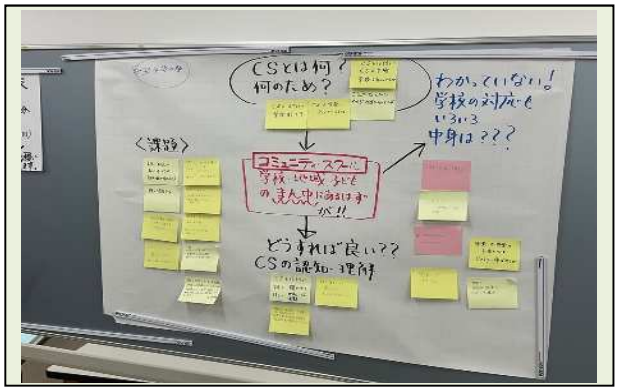
【意見等】（Ｃグループ）
・CS とは何かわかっていない。学校のどこに位置づけられているかよくわからない。CS について学校はどう思っているのかわからない。CS はどんどん学校の中に入っていく。ひとりぼっちでいる子や、勉強がちょっと苦手な子を見抜くために CS がアポを取らずに入っていく。校長先生は好きな時間に来てくださいと言われ、入っているようであるが、そうすると子どもたちの変化がすごくよくわかる。学校、地域でやったことが、30 年後振り返ってこの地域に戻ってきてわかる。やってもらったことを 30 年後に子どもたちにやらせたいと思う気持ちは同じであると思う。ぜひ子どもたちに松阪市に生まれて良かったと思えるようにしていただきたい。
・CS と学校に対してどこまで言って良いのかわからない。誰な話を一番にしたら良いのか、子どもが楽しいと思えることをどんどん CS でやっていきたい。
・今現在の学校の現状は 30 年前の結果である。今やっていることはすぐには結果が出ないが、30 年後には必ず花が開くようなことを今から CS でやっていく。とにかく CS は何なのかを地域の人に知っていただきたい。保護者も含めて、CS の理解を進めることが必要である。今日の資料を使って、CS が子どもたちにとってどんな影響があるか、何のためにあるのか、まずは地域に広げていっていただきたい。
・ある学校では、PTA が活動をしていないので、CS が立ち上げて、PTA の代わりに校長先生と話して活動を進めて行っている。
・CS を進めていく、講座を開いてほしい。

委員長所感

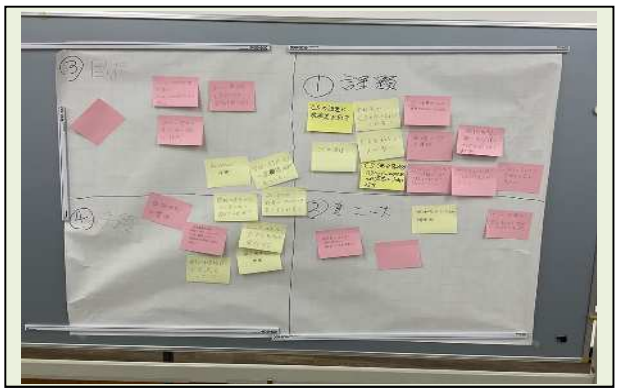
〇第一部では「みえ松阪マラソン」への質問、意見があり市民みんなが参加できるマラソン大会にしてほしい、住民自治協議会等へも周知徹底し応援体制への具体的な指示がなされていないという事から今後、指示系列をはっきりとし、応援内容を具体的にお願いする事が不可欠である。次に大きな問題として中学生に対するボランティア動員の在り方については、各学校単位での判断として①授業として扱う学校（強制ボランティアにあたるのでは？）②純粋にボランティア活動として扱う学校があった事に対して、①についてはボランティアそのものの意義や生徒たちにボランティア活動を通して経験を積んでほしいという意味合いからの授業としての取扱いになったようだが、いろんな環境の生徒がいるのでしっかりとした判断も必要だと感じた。賛否両論あるなかでどちらが正しいと判断できるものでもないと思うが、みえ松阪マラソン自体は概ね賛成意見だった。今後、みえ松阪マラソンを継続していく為に応援体制や内容、市民の理解は重要であり運営側も含め一層の周知徹底が必要だと感じた。
〇第二部では「コミュニティスクールについて」というテーマでスタートした。まず、コミュニティスクール（学校運営協議会）とは具体的になにをしているのかわからないという方が大半で、また実際、学校運営協議会の委員の方でも学校、PTA、地域との関係性や立ち位置がわからない。CS とは単なるボランティアと勘違いしている方も多いとの事、学校から要請に応える学校ボランティアという認識である。そもそも教職員自体がわかっていない、という意見、学校運営協議会は学校側の計画に対しても提言、意見が言える立場。
学校とともに将来を担う子供達のために PTA や地域の意見等を吸い上げ最も適した計画を遂行していく事が肝要だと思う。令和６年度において松阪市では全小学校でコミュニティスクールが実施されるが、現在委員と学校側とのコミュニティスクールについての考え方の格差が生じているように思う。
今一度、教職員、委員含め各学校にコミュニティスクールとは！という勉強会や周知が必要だと感じた、ぜひ実行してほしい。
〇今回の文教経済委員会の議会報告会は各委員が案内チラシを配布し、また SNS での周知等を行いテーマに対する関係の方々が沢山参加いただき、時間が全く足りないほど、有意義な報告会となった。２３名の方々に参加いただいたが、まだまだ周知が完全とはいえない。見える議会を目指し今後の議会報告会に向けてさらなる模索が必要だと感じた。

議会報告会の様子

第22回 議会報告会


CSとは何？
何のため？
わかっていない！
学校の対応も
いろいろ
中身は???
〈課題〉
コミュニティ・スクール
学校・地域・子ども
のまんなかにあるはずが!!
どうすれば良い??
CSの認知・理解

参加できるこども達だけではない
こどもの気持ち
を取り残さない!!
現状
課題
卒業しても地域とつながっていきたい
未来図
学校
地域
保護者
こども
意識


目的
課題
ニーズ